

(別紙)

令和元年8月6日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒小学校
校長 吉井香織

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

- ①発達障害や通級指導についての研修機会の拡大
(多くの教員が発達障害と通級指導に関する専門性を身に着け、通常学級での指導に活かせるよう、教職員研修の仕組みづくりと推進に取り組む。)
- ②少人数指導と少人数学級編成の推進
(全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、算数だけではなく、国語においても少人数指導を導入する。また、理科助手や体育助手を配置する。)
- ③ICT 環境整備
(学校 ICT 環境の整備として、クラス全員が異なる動画を同時に視聴しても支障のない通信環境を整備する。また、一人 1 台のタブレット端末を新しい文房具として常に使用できるようにするため、公費での一部負担や寄付の受け入れ等の体制を整える。)
- ④義務教育 9 年間を見通した指導体制の見直し
(小学校高学年で、学級担任制から教科担任制への緩やかな移行)
- ⑤SC や SSW とともに取り組む生徒指導
(子どもの問題行動への早急な対応のため、SC や SSW との相談体制を強化し、学校と家庭と福祉が子どもの心の成長を支える。)

○「地域との連携、協働」について

- ①教師の勤務実態を学校、保護者、社会が共有し、一緒に校務を見直す機会の創設。
- ②特別免許状制度の活用を始め、教員免許の仕組みを見直して多様な人材が教壇に立てるような制度作り。
(英会話、プログラミング、水泳など)

③家庭教育の見直し。

(家庭が何をしなければならないかをはっきりさせ、子どもの人格形成に大きく影響する家庭教育の重要性を地域と共に考える機会の創出。)

○「教職員の働き方改革」について

①教職員の意識改革のための研修体制の構築。

(管理職だけでなく、すべての教職員が年1度の義務研修を受ける。)

②学校における働き方改革の進捗状況の公表。

(学校単位ではなく、市全体として学校の働き方改革の進捗状況を公表し、学校における業務改善内容を明確にする。)

○その他

①施設開放業務の見直し。

(施設開放業務は学校から生涯学習課の担当にし、生涯にわたって学び続ける市民の育成のため、企画・開放受付等すべて市役所内で実施する。)

※切:8月26日

(別紙)

令和元年8月26日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立生駒南小学校
校長 大久保 智子

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

「健やかな体の育成」「豊かな心の育成」「確かな学力の育成」

○健やかな体の育成に向け、体力向上の取り組みを推進したい。昨年度配置された「体力向上推進コーディネータ」のような立場の人が常時いると、取組が活発になると思う。

○豊かな心の育成として、規範意識の向上や思いやりの心の育成を重点的に取り組みたい。地域で取り組まれているあいさつ運動との連携をさらに進めると共に、地域の人の交流やこども園・保育園との交流を活発に行い、人と関わる機会を多く設定したい。

○確かな学力の育成として、まずは基礎基本の学習を徹底して行うことが必要である。市全体で教材を共有できる仕組みがあるとよい。また、パソコンやタブレット等を利用して短時間で学習方法を取り入れたい。(児童が自分に合った内容の学習を各自のペースで進めていけるようなもの)。ICTの活用は児童の学力向上と教員の働き方改革の両面で効果があるのではないかと思う。

○「地域との連携、協働」について

○家庭環境の複雑な家庭が多いため、子どもの養育が困難な家庭と連携を密にして児童の指導を行うとともに、必要に応じて家庭の養育の支援を進める必要がある。サポートセンターや、警察等関係各所と連携して子どもの健康と安全の確保に努めたい。また地域の協力も得ながら、地域全体で子どもたちを見守り育てる雰囲気を作っていきたい。

○学校の様々な活動に、地域の人材活用を広げて行くとともに、学校運営の中に地域の意見も取り入れていけるようにしたい。まずは、学校の活動を支援するボランティア組織を構築することを考えている。(コーディネーター役となる人材を見つける必要もある)

○「教職員の働き方改革」について

- ・職員が常に勤務時間を意識し効率よく働けるように声かけをするなど、管理職が職員の勤務時間の管理を行うことが必要。
- ・会議や研修など全体用務はその内容を精選して勤務時間内に確保し、時間外勤務とならないよう配慮したい。まずは ICT を活用し会議を簡素化することから始めたい。
- ・学校行事や年間計画を見直し、授業時数を確保しながらバランスの取れた計画を心がけ、教員が教材研究のための時間を確保する。
- ・具体的な退勤時刻を目標に掲げ、用務の優先順位を考えた勤務を推奨する。
- ・働き方改革の推進のためには、保護者や地域の協力が必須である。各学校だけでなく市全体で共通した取組となるようにしたい。

○その他

- ・特別支援教育の更なる充実(特別支援教育支援員の増員・通級指導教室の増設)
- ・学校図書館の蔵書数の増加と司書の配置増
- ・市独自の少人数学級編制の推進
- ・本物の文化や芸術に触れる機会、生駒の歴史や文化などを体験したり学んだりする機会の提供

(別紙)

令和元年8月20日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒北小中学校
校長 田月 靖二

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

- テーマ 「一人ひとりを大切にする教育活動の充実」
不登校やいじめ問題等児童・生徒一人ひとりが抱える様々な課題に対して、組織的な対応を進め、その課題の克服を目指す。
- 具体的な手立て
 - ・校務分掌に生徒指導主事・教育相談コーディネーター(特別支援コーディネーター・人権教育推進担当)を配置
 - ・スクールカウンセラーの常勤(名古屋市では配置されている)
 - ・生徒理解及び生徒指導に関わる様々な問題に対して、生徒指導主事及び教育相談コーディネーターが中心となり、S.C.の専門的なアドバイスや関わりを基に、多角的な視点から対応を進める。
- 必要な予算措置
 - ・S.C.の常勤配置
 - ・教育相談コーディネーターの加配措置

○「地域との連携、協働」について

- サポートスタッフの配置促進
 - ・教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムでも取り上げられているサポートスタッフの配置を促進し、連絡調整役として主体的にすめられる人材配置(実務を伴う業務を担当)

○「教職員の働き方改革」について

- マンパワーの充実
 - ・特別支援や部活動等に関わる支援員の増員
 - ・学校経営アドバイザーの配置

管理職（特に教頭）の負担軽減のため、退職管理職経験者を活用し、事務補助及び保護者対応等へのアドバイスを行う。また、負担軽減による時間を使い、現職管理職が教職員への指導・助言等を充実させる効果が期待される。

○その他

※切：8月26日

(別紙)

令和元年8月 日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒台小学校
校長 生駒 有喜子

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

各先生方の得意とされていることを生かすことができる学級作りと地域とのつながりを大事にした学校教育

○「地域との連携、協働」について

とくに、見守り隊のかたが高齢化していて、新しい方が入ってこられないため、なにか方法はないかと悩んでいます。学校便りや育友会で呼びかけてもらっていますが、なかなか集まっていないのが現状です。

○「教職員の働き方改革」について

特別な支援が必要な子どもたちが増えているので、教員免許の有無に関わらず、人材登用できるように。せめて、以前教員免許を持っていた、とか、教師経験があるとかの方が、来て頂けると先生方の働き方もかわるのでは。

○その他

✕切:8月26日

(別紙)

令和元年8月26日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒東小学校
校長 松井 功

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

・教職員一人一人の思いを受け止めながら、指導力の向上を図り、チーム学校としての力量を高めたい。
・学校の様子や思いを保護者や地域に発信し、保護者や地域と密に連携しながら教育に取り組みたい。

○「地域との連携、協働」について

・児童の登下校の安全確保のほか、授業や行事の支援、学校美化の協力等地域と密に連携していきたい。

○「教職員の働き方改革」について

・校務支援システムの活用、留守番電話対応等条件整備や意識改革は進んできたが、まだまだ一人一人の仕事は多く、月45時間以上の時間外勤務の実態がある。。

○その他

特になし

✕切:8月26日

(別紙)

令和元年8月 22 日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立真弓小学校

校長 堀田 勝

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

○確かな力と豊かな心を持ち、新しい時代をたくましく生きる人間の育成
「共に学び共に育つ真弓小学校」をスローガンに、人とのかかわりを大切にしながら、子どもが学校の主役になり、教職員も保護者も学び、育つ、豊かな感性を培う教育を目指す。

→日常の学習指導や生活指導を縦の糸とし、学校行事を横の糸として、二つがしっかりからみあった丈夫な布(たくましい子ども)を育てる。

日常の学習指導では、大型モニターや情報機器を駆使して、わかりやすくインパクトのある授業を工夫する。プログラミング教育推進のための教育素材を開発して、子どもも教員もアレルギーを起こさせない授業づくりをする。

→・校内研修を充実させるとともに、外部の研修(市教委・県教委主催の研修等)に参加し、教育力を高める。

・学校行事は、子どもを飛躍的に成長させる重要な取組であるとの認識の下、綿密な計画を立て進める。社会の変化や多様なニーズに柔軟に対応する。

↓

学習指導における教材や教育機器の充実、研修や行事の推進のための人材(講師)の確保等に充てる予算の配当。

○「地域との連携、協働」について

「地域と共にある学校」という考え方を再認識する。

子どもの教育は学校だけで完結するものではない。子どもの後ろにいる保護者、さらにそれを取り巻く地域。学校は地域の中にこそ存在するということを教職員は認識したい。

地域の思いや願いを知るとともに、学校(教職員や子ども)の思いや取組を発信していく。「学校は地域の財産である」という認識を大切にして、学校と地域が連携・協働できる取組を考える。

学校の窓口として教頭以外に、校務分掌としての地域コーディネーターを配置し、地域の自治会等の団体とのやり取りを専任するような職員を置く。学校のニーズを発信して、ボランティアを募り、地域の協力を得ながら、子どもが主体的に地域の方々との関わりを深めるとともに、行事や出前授業を実りあるものにする。子どもたちが地域の方々との関わりを通して、地域の一員であることを自覚し、将来、地域を担う人材に育つことを願う。

管理職にその職務を付加するのは管理職の働き方改革に逆行するものである。故に、運営の中心になる職員(地域連携コーディネーター)の配置を検討していただきたい。

○「教職員の働き方改革」について

毎日の出退勤記録を確認することで、教職員が自己の勤務状況を把握し、超過勤務を解消するための仕事の効率化・取捨選択を進めるとともに、職員会議等で協議をして、現行の学校行事や習慣化されている取組について見直しを図り、「例年行われているから」という視点を排除して新しい発想を取り入れる。

本当に必要な教育活動を厳選し、その他については思い切ってなくす努力を、保護者・地域の理解を得ながら進めていく。

ただ、その場合においても、教育のグローバル化や情報化、プログラミング教育や英語教育、特別の教科道徳など新しい学習内容に対応するための職員の負担は看過できない。これらの推進のすべてを学校に委ねるというのではなく、教育委員会が指針やマニュアルを示すなどして、取り組みやすい環境を整えていただきたい。

○その他

※切:8月26日

(別紙)

令和元年8月26日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立俵口小学校

校長 稲浦 寿子

○「実践したい学校経営」について

本校の学校教育目標は「共に育つ～考えをみがく・心をみがく・仲間とみがく～」である。異なる個性・特性をもつ子どもたちが互いに共々によりよく成長していくことを目指している。また、児童を支える保護者・地域・学校教職員も互いに育ちあうことも目指している。実践したい学校経営についてグランドデザインの中で掲げている「目指す学校像」に沿って考えたい。

①学びの意欲にあふれ、仲間と共に高めあう学校

学校は学びの場である。児童が仲間と共に学びを深める学習環境を整える必要がある。最も重要なことは、教職員の授業力の向上を図り、授業の質を磨くことであると考えている。「授業は授業から学ぶ」の考えから、授業観察を繰り返しているが、職員間でも日常的な授業参観が広まりつつある。ICT環境の充実

②やりがいと喜びをもって取組める学校

本校でも大きな世代交代の波が押し寄せている。どのライフステージの職員にとってもいきいきと働ける学校を目指したい。個々の持ち味を活かし、互いに尊重できる職員集団づくりに努めている。

③地域に開かれ、信頼される学校

地域ぐるみ健全育成協議会を中心として、民生委員や青少年指導委員などの地域の方々にたいへんお世話になっている。また、児童の体験学習では、地域朗読の会・生け花・老人会等にも協力いただいている。今後は学校から地域への発信という点での充実を図る必要がある。HPの更新やSNSを活用した発信については、校務支援システムの導入による負担軽減が図られることを期待したい。

○「地域との連携、協働」について

中学校区地域ぐるみ児童生徒健全育成協議会(以下 地域ぐるみ協議会)を中心として、民生委員や青少年指導委員などの地域の方々には、児童の見守り等たいへんお世話になっている。また、児童の体験学習では、地域朗読の会・生け花・老人会等にも協力いただいている。

地域ぐるみ協議会の活動単位が中学校区となっているため、推進委員会の規模も大きく、各小学校区の情報共有も行うが具体的取組の充実につないでいきにくい状況がある。生駒中校区では、昨年度より各小学校単位で、秋の学校祭イベントに、小学校区の地域ぐるみ協議会の方に参加していただく取組がスタートしている。今後、これまでの地域ぐるみ協議会の取組を基盤に、地域コミュニティースクールの枠組みにどう移行していくのか、道筋を整える必要があると考えている。

本校校区では、近年各自治体の老人会の運営が厳しくなっているといった状況を聞いている。地域住民の世代交代も進む中、地域コミュニティーの充実・存続は、今後の学校の教育活動の充実発展にも大きな影響を及ぼす。地域と共にある学校として、学校を取り巻く地域の状況を把握することも重要である。行政の地域を支える取組は、学校を支えることにつながっている。

朗読会や生け花など、地域の方の協力を得て行う体験学習は、たいへん大きな教育効果があると考えている。現在実施している多くが、長年継続して行っているものである。プログラミング教育や外国語の教科化等新しい学習指導要領の完全実施が迫り、また、部活動の外部指導者の活用がすすめられようとしている中、今後さらに広い分野で地域におられる方々の「得意」を学校の教育活動に活かすための方策を考える必要がある。そのためには、まず地域の人材発掘・人材バンクの整備が必要である。「ひとづくりはまちづくり」は言い換えれば「まち」全体が「ひと」づくりの教育に関わることにも通じている。生駒市におられる方々の「得意」を集めた人材バンクの整備をお願いしたい。

○「教職員の働き方改革」について

教職員の働き方については、国・県・市で具体的取組が求められてきている。当初は、「早く帰れと言われても」「仕事量のことも考えてほしい」などあった職員の声も、「どうすれば早く帰れるようにできるのだろうか」「仕事量を減らすために業務をどう改善すればよいのだろうか」といったものになりつつある。教職員の働き方改革をさらに推進していくためには何が必要かを考えたい。

①教職員の意識改革

前述のとおり、職員の意識は徐々に変わってきていると感じている。国・県・市の施策を共有し共に考えながら進めていきたいとの考えから、働き方改革推進の校内委員会を立ち上げ、取組を進めている。働き方改革は、まず自分の命や暮らしを守り人生を豊かにする取組であること、そのことが教育活動の充実に自ずとつながることを共通認識したい。

②保護者・地域の理解

働き方改革の推進に保護者・地域の方々の理解は不可欠である。「時間創造プログラム」の開示、働き方改革推進や留守番電話設置のお知らせ文書等、行政からの発信はたいへん有効であり、今後も引き続きお願いしたい。市の施策をうけて、学校はどう動くのかや具体的な場面に応じてどんな対応が考えられるのかについては、学校単位でも保護者への周知が必要であると考えている。学校間でも連携しながら進めたい。

③業務改善の積極的な取組

現在導入が進められている校務支援システムは、職員の働き方を大きく変えるものと期待している。校内エバンジェリストを中心にスムーズな運用に向けて取組を進めたい。

校務分掌の整備や行事等の精選については、新学習指導要領が完全実施されるこのタイミングが適期であると考えている。教育目標に照らして、継続すべきは何か・見直すべきは何かを見極める必要がある。保護者の理解を得るためにも熟慮が求められる。

○その他

○保護者支援について

近年の虐待事案のなかでも、心理的虐待・ネグレクトの問題には家庭の経済状況等も関わっており、解決には様々な関係機関の連携が不可欠である。情報の共有にとどまらない積極的な関わりが必要なケースも少なくない。バランスのとれた家庭教育を支援できるように、今後も連携の充実を図りたい。

○個に応じた指導・対応について

不登校対応や合理的配慮を必要とする児童の対応、外国人児童・生徒の対応等、個の状況に応じた指導が求められる場面が多くなっている。現在も県児童相談員や市特別支援支援員の先生のお力を借りて取組を進めているが、児童の状況や保護者の要望に応えるに十分とは言えない現状である。配慮を必要とする児童にとっては、見守りと声かけは大きな安心・安全につながることから、今後さらなる人的配置の充実をお願いしたい。

✕切:8月26日

(別紙)

令和元年8月20日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立鹿ノ台小学校

校長 小野 雄史

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

子どもたちが安心感を持って自分の力を発揮できる、また、発揮しようとする意欲を持てる環境作りを行う。そのために、互いを認め助け合いながら、規範意識とコミュニケーション力の向上を図る。手立てとして、話し合い活動・読書活動・体験学習・異年齢集団活動・多文化理解・外国語活動等を充実させたい。

○「地域との連携、協働」について

地域に開かれた学校として、情報発信と収集を積極的に行い、課題の共有と共通理解を図り、子どもたちの安心、安全と成長のために連携と協働を深める。

○「教職員の働き方改革」について

勤務の効率化、時間短縮だけでなく、協働とコミュニケーションを重視してチーム学校力を高め、個人的な負担感をなくしていくことが必要。

○その他

〆切:8月26日

(別紙)

令和元年8月 22 日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

桜ヶ丘 小学校
校長 中谷 篤

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

◎ICTの活用やAIといった最先端技術に触れる機会を増やしていきたい

その為には、

- ・タブレットを 40 台導入し各教室で使用できる環境にする。
各教室が無理な場合は、まず図書室や多目的室等で使用できようにしてほしい。
- ・地域人材や高専等の出前事業の活用により、プログラミングや AI について学ぶ機会を設ける。

○「地域との連携、協働」について

◎水泳指導を地域のスイミングスクールと連携して行う。

- ・プールが傾いていたり、プールの底の塗装が剥がれてきたりして、毎年プール関係修理費に多額の金額がかかっている。また、水代や薬代にも毎年費用が掛かっている。1 学年 10 時間程度のしか利用しないことを考えると無駄なように感じる。
- ・地域のスイミングスクールを活用することにより、寒い日でも雨の日でも利用でき、授業を計画的に進めることができる。
- ・市費の事務員が引き上げになり、職員室で電話や来客者との対応ができる者が少なくなっている上に、プール指導時の安全確保のため管理職が監視につく為、益々人手不足となっている。スイミングスクールと連携することにより、監視員等の確保に協力してもらえると考える。

○「教職員の働き方改革」について

◎スクールサポートスタッフの本格導入

職員の超過勤務の理由等を見ていると、授業準備やプリントやノートのチェック、学級掲示等に時間がかかっており、なかなか減らすことが難しい。

児童の学力保障の為の働き方改革であるので、ぜひ人を増やす政策をお願いする。

◎養護教諭の複数配置

児童の怪我ばかりでなく、心のケアも必要になってきており、その件数も増加してきている。児童の安全確保の為にも複数配置をお願いする。

◎市費事務の復活

管理職や県費事務が出張の時に、職員室で電話や来客者との対応ができる者がおらず、空き授業の担任に協力を得ている。その為、授業準備等の時間が確保できず、超過勤務にも繋がっている。

◎各教室にインターホンの設置を進める

職員室にいる者が、保護者からの伝言を教室に伝えに行く場面が多くある。インターホンが、各教室にあれば職員室を空けることも少なくなり、緊急時にも迅速に対応できる。

○その他

--

※切:8月26日

(別紙)

令和元年8月19日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立あすか野小学校

校長 石村 吉偉

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

○「主体的・対話的で深い学び」ができる学習環境整備・ICT環境整備

- ・各教室にPC又はタブレット1台・書画カメラ1台ずつ配置(常に使用できるようにセッティング)
- ・各教室に電子黒板の設置
- ・1クラス児童分のタブレット
- ・図書室の拡張と蔵書の充実

○安全・安心な学校(避難所としても対応)

- ・体育館にエアコン設置
- ・トイレの増設
- ・運動場への階段使用以外の避難方法
- ・GPS機能付き端末を活用した24時間見守りシステム
- ・いじめ・不登校等への対応ができる教員の配置
- ・小学校へのスクールカウンセラーの配置
- ・バリアフリー化(車椅子の児童・保護者が上り下りできるエレベーター)

○エコ推進

- ・太陽光発電の活用
- ・教室、体育館等のLED化
- ・教職員のタブレット使用による会議室での職員会議(ペーパーレス化)

○異校種間連携

- ・組織づくり及び定期的な会議の開催
- ・地域の公立・私立園との交流費用の予算化

○地域との連携・協働(別紙)

○「地域との連携、協働」について

○ボランティア組織の体制づくり

- ・ボランティアコーディネーターの設置
- ・ボランティアに対する謝礼
- ・地域との会議費の予算化
- ・地域と協働する活動費の予算化

○放課後子ども教室の開催

- ・大学生ボランティアの募集及び活用
- ・活動費及び謝金の予算化
- ・地域の方で組織化

○社会に開かれた教育課程

- ・地域人材の発掘
- ・ゲストティチャーの招聘
- ・地域と協働する教育課程の見直し

○規範意識・自尊感情の醸成

- ・児童が褒められる。児童が地域の方への感謝の気持ちを表現する。

○「教職員の働き方改革」について

○管理職の負担軽減

- ・職員室黒板の液晶ビジョン化(統合型校務支援システムとの連動)
- ・出退勤記録の計上方法の変更(実労働時間の把握)

○ICT環境整備

- ・各教室にPC又はタブレット1台・書画カメラ1台ずつ配置(常に使用できるようにセッティング)(再掲)
- ・各教室に電子黒板の設置(再掲)
- ・職員室プリンターの複数配置
- ・電子化による旅費申請、その他申請

○統合型校務支援システムの内容充実

- ・指導要録関係、保健関係、学校日誌等、早期の充実

○その他

※切:8月26日

(別紙)

令和元年9月6日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

壱分小学校
校長 原井 葉子

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

子どもを取り巻く環境が急速に複雑・多様化する中で、「児童一人一人が、これからの時代を生き抜く力を身に付けること」が実現できる学校経営を目指している。その実現に向けては、子どもたちの個に応じた指導、個別の支援体制が不可欠であると考え。不登校傾向、発達に特性をもっている子、学力に課題のある子、いじめの問題等、一つ一つの課題に対応していくのに必要なのは、「人」である。教職員の力を適材適所に活用し、チーム学校としての組織力を高めながら、子どもに、将来の夢をもち、困難を乗り越え、たくましく生きる力を育てていきたいと考えている。

そのために、人的配置の一層の充実をお願いしたい。

○「地域との連携、協働」について

○ **地域と共に育つ学校**を目指している。本校は、やまびこネットワークという基盤があり、これまでも、見守りや学習支援、交流イベントなど、学校に協力、支援をいただいていた。今後は、さらに、生涯学習課のチームたけのこや気らくネットの支援など、それぞれの得意分野を活用し、地域の力を学校に活かしていきたいと考えている。

○ 「共に育つ」とは、**学校が地域に支援していただくだけではなく、学校が地域のためにできることを考え、実現していくことが必要**であると考え。学校施設の開放・活用、交流イベントの開催、子どもや保護者、地域の方の居場所作り、人材活用による生き甲斐、やり甲斐など、保護者、地域と共に進めていきたい。

○ 今年度、スクールサポートスタッフを配置いただいたことで、地域との交流の推進を図ることができた。コミュニティスクールの実現を視野に入れた組織作りを考えていく上で、重要な役割を担っている。

○「教職員の働き方改革」について

- 本校では、今年度スクールサポートスタッフを配置いただいたことで、職員の業務が軽減され、その効果、存在意義の大きさを実感している。
- 超過勤務を減らし、子どもと向き合う時間、授業づくりにかける時間を優先するには、学校や教師が担う業務の明確化、適正化が必要である。コミュニティスクール等の場で、保護者や地域の理解、協力を進めていくとともに、これまで当たり前になっている行事を思い切って変えていく必要があると考える。たとえば、運動会を午前開催にしている市町村も県内で増えてきている。大きな行事は、学校単位で変えていくことは難しいので、市全体で考えていただければ有り難い。
- 改革を推進していく上で、保護者、地域の理解を得ることは不可欠である。電話対応の時間制限を進めていただいたことの効果も、早速実感している。

○その他

- プログラミング教育の推進に向けて、タブレットなど、ICT環境の充実が望まれる。大型モニターを活用するためにも、一層の環境整備をお願いしたい。

(別紙)

令和元年8月23日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒南第二小学校
校長 山中 治郎

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

- ・児童生徒ひとりひとりの人権を尊重しあい、ひとりひとりのよさを認め高めあう教育の推進。
- ・教員自身の人権意識を高めるとともに、児童生徒一人一人に寄り添い育ていこうとする教員の養成。
- ・

○「地域との連携、協働」について

- ・児童生徒の教育及び、活動や安全を、教員・保護者・地域の三者が協力し合いともに見守り育ていくような「地域と共にある学校」を目指していくことが大切になってくると考える。
- ・地域にある人材の活用、学校と連携が取れる地域ネットワークの構築、地域にある教材等の開発から地域のよさを誇りに思うような心情の育成など、これらのことから、地域による児童生徒の見守り、学校や保護者を巻き込んだ街づくりにつながっていけばと思う。

○「教職員の働き方改革」について

- ・教職員のワークライフバランスを考えながら、いきいきと児童生徒に向きあう教員であるために、授業や校務に ICT や校務支援システムを有効に活用していくようにする。またそれをサポートしたり、リードしたりしていくようなスタッフを充実させる。

○その他

令和元年8月5日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立生駒中学校
校長 三村 明弘

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

生徒、保護者、教員が心身ともに健康で、元気で活気のある学校。
生徒、保護者、教員が「大好き 生中！」と思えるあたたかい学校。
不登校生徒への支援、相談の充実。特別支援教育の充実。「心の教育」の
充実。学校行事の充実。教職員の資質の向上。

○「地域との連携、協働」について

登下校時の見守りや挨拶など、子どもたちの健やかな成長に尽力してもらい
大変感謝しています。現在の「地域ぐるみ」の組織は、青少年指導委員会と
多くのメンバーが重複しており、学校の担当教師がその運営のために大きな
負担をかかえているのが現状です。祭りの巡視も深夜までの活動を期待さ
れている地域も多いようです。これからコミュニティースクールへと移行され
るようですが、**地域の人材がより主体となる組織づくり**に期待しています。

○「教職員の働き方改革」について

職員会議の日は部活動を休みとし、定時退勤日も設けています。ただ現在
の評価・評定の方法では、事務量を減らすことが難しく、部活動の指導も大
きな負担です。また地域や PTA との連携で土日に出勤をお願いすることが
少なくありません。授業をけずることもできず、年休はもちろんのこと振替休
日すらとってもらうことが難しいのが現状です。部活休養日や定時退勤日の
設定も管理職と職員との溝を作っている場合もあり、本当に難しいもので
す。特別支援教育支援員の増員等、人的支援の増員を是非お願いしたいも
のです。

○その他

--

(別紙)

令和元年8月 日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立生駒南中学校

校長 奥田 真代

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

これからの時代はコミュニティスクールを軸とした学校経営が重要になるとお
思います。目指す子ども像を策定、共有するところから三者(学校・地域・保
護者)が協働することが大切である。次代を担う子どもを地域の中で育てる
意識を持つことが重要。モデル地域・学校の例を作り、この取り組みの具体
的なメリットを示していくことから始めていくことが大切である。管理職が理
解できていないと進んでいかない。残念ながら現状は意識が低いように感じ
る。もう一つは学校評価のさらなる充実であると思います。

○「地域との連携、協働」について

学校を助けるというボランティア活動の意識から、連携、参画、協働へと意識
改革が双方に必要であると思います。これは地域、保護者、教員がこれまで
の発想を転換することが大切であり、うまく推進することができれば、働き方
改革が大きく推進することにもつながると思います。

○「教職員の働き方改革」について

働き方改革を推進することが急がれると思います。管理職不足や女性の人
材の登用にもつながる改革であると考えます。学校内での教育活動の精選
や精査では追いつかない業務があります。部活動も思い切って学校と切り
離す時期が来たのかもしれませんが。今の若い教員の考え方に沿った改革だ
と思います。校務支援システムの導入はかなり無駄が減少すると思われま
す。出退勤カードの導入も賛成です。

○その他

(別紙)

令和元年9月2日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立緑ヶ丘中学校

校長 前川 尚志

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

「生徒が夢を持ち、夢実現の努力が継続できる学校づくり」

○「地域との連携、協働」について

校区地域ぐるみの組織を基本にした校区内小学校・自治会との連携づくり

○「教職員の働き方改革」について

学校行事の精選と見直しによる勤務時間軽減を図る

○その他

※切:8月26日

(別紙)

令和元年9月4日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立鹿ノ台中学校

校長 深瀬 重雄

○「実践したい学校経営」について

「豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、主体的に活動する生徒の育成」

～21世紀を生きぬく力の育成～

(様々な社会の変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力を育む)

豊かな心とたくましい体を育む

- ・いつでも どこでも 心のこもったあいさつ
- ・生命を大切にする心や人権を尊重する心を育む人権教育、特別支援教育の推進
- ・朝読書、道徳教育、保健教育、食育、キャリア教育の推進
- ・運動能力・体力づくりの推進
- ・登下校の安全指導の推進
- ・防災教育の推進

自治力と規範意識を培う

- ・組織的・日常的な委員会活動の推進
- ・生徒が自主的に行い、達成感を味わえる学校行事の創造
- ・生徒の自浄作用を生かすとともに、生徒から信頼される生徒指導の構築

生徒が輝く授業づくり

- ・生徒のコミュニケーション能力が高まる教科・学活・総合学習の授業
- ・確かな学力をつけ、生徒にわかる喜びを感じさせる授業
- ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業研究の推進

美しく温もりのある学校環境作り

- ・清掃活動、ボランティア活動の推進
- ・廊下、教室等の明るく工夫された掲示
- ・美しく温もりのある花壇づくり
- ・施設・設備の計画的点検と早期修理
- ・働きやすい職場づくり

○「地域との連携、協働」について

- ・地域と合同での防災訓練や巡回指導、清掃活動、地域イベントへの参加等に今後とも取り組んでいきたい。
- ・学校と地域のニーズのすり合わせや連絡・調整などを担うコーディネーターの整備が必要である。現在の地域ぐるみの活動について、事務局が学校というのは、負担感が大きい。

○「教職員の働き方改革」について

- ・「校務の削減・廃止」と言われるが、新たな〇〇教育の推進や授業数の確保、様々な機関からの学校への協力依頼、等々、学校の担う仕事量も多く県や市の方針の遵守は厳しい状況にある。各校との情報交換を図り、善処できるよう努めたい。

○その他

- ・校務員の業務体制について、夏季休業中は勤務なしになっているが、生徒のいない時にこそお願いしたい作業や除草作業、植木の剪定など、夏のこの時期にしてほしいことも多い。その間ほっておくわけにもいかず、教員がせざるを得ない状況にある。校務員さんの安定した収入ということも考えて、8月も勤務していただきたいです。
(「教職員の働き方改革」に関わって)

(別紙)

令和元年8月6日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立上中学校
校長 高島 智春

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

- ①生徒が主体的にいきいきと学ぶ環境・仕掛けづくり・・・授業力向上、体験活動の充実
- ②命の教育と人権教育の充実・・・豊かな人間性の育成、自己肯定感の高揚
- ③教職員が意欲をもって働ける環境づくり・・・ハード、ソフトの両面にわたって
(先生が生き生きとしていないと子どもは元気にならない。)

○「地域との連携、協働」について

- 地域との連携、協働についてはいくつかの課題があります。
- ① 地域の教育力を生かしていない。(学校に協力的な方は多いが、学校の希望と地域の方の思いが異なることがある。)
 - ② コミュニティスクールと地域ぐるみの活動をどのように整理するのか。
 - ③ 市民自治連合のような組織の中で、中学生が活躍する場をつくる。
(市民自治連合と学校はどのように連携するのか)

○「教職員の働き方改革」について

- ① 職員が勤務時間を管理し、自己の働き方を意識し始めるようになった。
- ② 優先順位をつけた仕事のやり方を目指していても、時間がかかる職員は決まっている。また、持ち帰って業務をこなす職員も多い。
- ③業務を減らすなどの改善は難しく、行事の精選と校務支援システムでの事務処理の軽減でしかできないのが現状である。業務改善のためには、教育委員会が主導し、学校を指導し、また協働しなければならないと考える。
- ④ 部活動の指導に多くの時間がかかる。休日の指導が負担になっている教員は多い。部活動の受け皿として任意のクラブ(保護者や地域の社会人コーチが指導)の導入を考えたかどうか。

- ⑤ 夏季休業中における、各職員の時間外勤務は少ない。学期途中は時間外勤務が多くなっている。時間外勤務時間を月別のみで判断するのではなく、年間トータルで考えてはどうか。(変形労働時間制に近い形の検討)

○その他

- ①大綱の学校教育の方針に「人権」という文言を入れるべきだと思います。
奈良県の学校教育の方針には、豊かな人間性の育成の中で「生命と人権を尊重する心の育成」とあり、学校教育にとって「人権教育」はあらゆる教育活動の根底にあると考えられるからです。

✕切:8月26日

(別紙)

令和元年8月16日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

生駒市立光明中学校

校長 上田 薫

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

本校に通級指導教室の設置

○「地域との連携、協働」について

人権教育推進、保護者同士の支援やつながりネットワーク

○「教職員の働き方改革」について

市内全中学校における部活動の社会体育化に向けたプロジェクト

○その他

小学校との連携強化

- ・定例の生駒台小学校との生徒指導部会(行動連携部会)の開催
- ・なかま教育推進委員会の発足

✕切:8月26日

(別紙)

令和元年9月6日

「生駒市教育大綱」の改訂に関わる意見

大瀬中学校
校長 吉川 祐一

下記の各テーマについて、校長先生のご意見をお聞かせください。

○「実践したい学校経営」について

- ・ **安全安心を第一に考え、命の尊さをしっかり考えられる「人」を育成する。**
(道徳教育の充実。規範意識や人権意識を高める。)
- ・ 生徒の自主性を引き出し、実社会で活躍できる「人」を育成する。
(生徒会活動の活性化。総合的な学習の時間の見直し。英語力の向上)
- ・ 個に応じた教育を実践し、一人一人が生き生きと活動できる学校を目指す。
(支援が必要な生徒への支援の充実。)
- ・ 時代を先取りできる教員集団を育成する。
(進化するための研修の充実。教員として崇高な気持ちを高める取組。)

○「地域との連携、協働」について

- ・ 地域人材を積極的に活用し、**地域の中にある学校**を作る。
(部活動支援、出前授業、家庭支援、不登校対策、防災教育等)
- ・ 学校運営協議会(**コミュニティースクール**)設置に向けた取組
(校長のリーダーシップと**コーディネーター**の確保)

○「教職員の働き方改革」について

- ・ **部活動の負担軽減**
(将来的に**部活動を学校から切り離す**ことにより、**地域が主体となり運営**を行い、教員がそこに参加する。例えば、生駒市を北、中、南に分割し運営する。体育協会との連携。中体連への働きかけ。)
- ・ 相談体制の充実
(スクールカウンセラーの常駐。保護者対応窓口の設置。)
- ・ 事務作業の軽減
(教員以外ができる事務作業を行う人材確保)

○その他

- ・ 教育支援施設の充実
(不登校児童生徒対応、家庭教育支援等)
- ・ 学校トラブルに対応する部署の新設(働き方改革にも関わり)
(関係機関との連携をコーディネート、経験に基づいた学校への適切な指導助言)
- ・ 優秀な教員の育成と人材確保
(ノウハウを伝える体制の構築。管理職を目指す教員の確保)
- ・ 改革への意欲
(管理職自身がモチベーションやチャレンジ精神を高める取組)

※切:8月26日